

令和4年度相模原市協働事業提案制度 公開事業報告会

もくじ

P 1

事業評価及び公開事業報告会の方法

P 2

公開事業報告会スケジュール

P 3

自己評価指標等の一覧

P 5

各事業のふりかえりシート
及び過去の提出書類一式

日時 令和4年6月26日（日）午後1時～

会場 相模原市立産業会館 4階 特別会議室

事業評価及び公開事業報告会の方法

1 事業報告会の対象となる事業

協働事業提案制度を活用しての事業実施は最大3年度まで可能で、令和3年度は6事業が行われました。このうち、今回の事業報告会で成果等を発表するのは次に該当する事業です。

- 令和3年度をもって、同制度を活用しての実施期間を終了したもの（1事業）
- 令和4年度が最終年度となるもの（3事業）

※令和3年度が1・2年目で次年度継続を希望する事業の進捗等については、10月頃開催予定の中間ヒアリングで報告します。

2 報告書（ふりかえりシート）の作成

事業報告会に先立って、協働事業の過程や成果を自己評価する報告書（ふりかえりシート）を、実施団体及び事業担当課双方の合意により作成していただきました。

3 評価の数値化等

ふりかえりシートには、事業の概要のほか、事業の達成度などを記号化・数値化して示してあります。

自己評価指標

「パートナーシップの原則」、「取り組みにあたっての関係性のふりかえり」、「事業の妥当性と効果」、「協働したことの効果」の4区分について、A（80%以上できた）、B（60%以上できた）、C（十分にできなかった）の3段階で評価を行いました。

自己評価点

A～Cで評価した4区分をさらに19に細分化し、a・b・c・dの4段階でチェックのうえ、a＝4点、b＝3点、c＝2点、d＝1点と置き換え、76点満点で点数化しました。

4 報告会の方法

1事業あたりの事業結果報告は10分間です。それを受けて、審査会による質疑応答（8分程度）を行います。

令和4年度 公開事業報告会スケジュール

日時 令和4年6月26日(日)
午後1時20分～午後2時50分
会場 産業会館 4階 特別会議室

進め方

- 団体及び事業担当課は、協議の上「ふりかえりシート」を事前に作成してください。
- 当日は、原則としてパワーポイントを使用し、成果報告を行ってください。(10分)
- 報告を受け、審査員が質問や助言を行います。(8分)

時間	区分	内容	事業概要	団体名	事業担当課	最終年度
13:20	開会					
13:20	市民	若年層に向けた金融教育支援事業 (高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話)	成年となることで契約に係る権利と責任が大きく変化することを踏まえ、高校生やその保護者に対して、金融教育や法的に大人になることについての講義、高校生が経済的理由で進学をあきらめないための奨学金等支援制度の適正な活用方法の説明や個別相談を行うことで、消費者被害の未然防止や将来の健全な市民の育成をしていく事業。	神奈川県ファイナンシャルプランナーズ協同組合	消費生活総合センター こども・若者支援課	昨年度
13:40	市民	市民参加による『さがみはら散歩』作成事業	相模原を市民がよく知り、全国に発信していくために、相模原を紹介する書籍を市民参加により作成したい。書籍には、文章、写真、地図、文芸作品などのほか、歴史、文化等を掲載し、総合的に相模原を知る資料とする。	市民講座 まなびのライブ塾	観光・シティプロモーション課 生涯学習センター	今年度
14:00	休憩(10分)					
14:10	市民	防災意識の普及啓発、持続可能なエネルギーと人の繋がりでの活性化事業	電気をはじめとした災害時に役立つ知識や防災・減災に資する知識、自助や共助の重要性などについて、幅広い世代へ普及啓発するため、イベントへの出展や、関心のある団体に対して出前ワークショップを実施する。	藤野電力	危機管理課 緑区役所地域振興課 藤野まちづくりセンター 政策課	今年度
14:30	市民	オープンデータ活用促進事業	オープンデータの利活用促進のため、市民に役立つオープンデータのニーズを掘り起こし、目に見えるサービス・アプリケーションの活用事例づくりを行い、オープンデータ活用実績として周知を行う。	さがみはらIT協同組合	DX推進課	今年度
14:50	閉会					

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

① 13:20 終了	事業の名称	若年層に向けた金融教育支援事業 (高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話)																		
	事業実施団体	神奈川県ファイナンシャルプランナーズ協同組合																		
	事業担当課	消費生活総合センター、こども・若者支援課																		
自己評価指標(A: 80%以上できた B: 60%以上できた C: 十分にできなかった) 自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				B					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	3	4	4	3	4	4	4	2	4	4	4	4	4	3	4	4	71

② 13:40 今年度最終	事業の名称	市民参加による「さがみはら散歩」作成事業																		
	事業実施団体	市民講座 まなびのライブ塾																		
	事業担当課	観光・シティプロモーション課、生涯学習センター																		
自己評価指標(A: 80%以上できた B: 60%以上できた C: 十分にできなかった) 自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	76

協働事業提案制度事業のふりかえりシート 自己評価指標及び自己評価点 一覧

③ 14:10 今年度最終	事業の名称	防災意識の普及啓発、持続可能なエネルギーと人の繋がり の活性化事業																		
	事業実施団体	藤野電力																		
	事業担当課	危機管理課、緑区役所地域振興課、藤野まちづくりセン ター、政策課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																				
自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価 指標	A					B				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	3	3	4	4	3	3	3	3	4	3	3	4	4	4	3	4	4	4	67

④ 14:30 今年度最終	事業の名称	オープンデータ活用促進事業																		
	事業実施団体	さがみはらIT協同組合																		
	事業担当課	DX推進課																		
自己評価指標(A：80%以上できた B：60%以上できた C：十分にできなかった)																				
自己評価点 (a=4、b=3、c=2、d=1) 満点76点																				
評価項目	パートナーシップの原則					互いの関係性				事業の妥当性・成果					協働の必要性					合計
自己評価 指標	A					A				A					A					
No	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	
自己評価点	4	4	4	4	3	4	4	4	4	4	3	4	3	4	4	4	4	3	3	71

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →		1		
事業の名称	若年層に向けた金融教育支援事業 (高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話)				
団体の名称	神奈川県ファイナンシャルプランナーズ協同組合				
事業担当課	消費生活センター、子ども・若者支援課				
事業の概要	成年となることで契約に係る権利と責任が大きく変化することを踏まえ、高校生やその保護者に対して、金融教育や法的に大人になることについての講義、高校生が経済的理由で進学をあきらめないための奨学金等支援制度の適正な活用方法の説明や個別相談を行うことで、消費者被害の未然防止や将来の健全な市民の育成をしていく事業。				
具体的な取組みの状況	<p>1、高校での授業開催</p> <p>①令和元年(2019年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原青陵高校(3年) クラス授業方式8枠2コマ(延べ約240名) 【テーマ】 高校生のためのライフプランワークショップ 奨学金の借り方、返し方 城山高校(3年) クラス別授業方式8枠(延べ約250名) 【テーマ】 高校生のためのライフプラン 城山高校(3年) 全体集会方式1枠(延べ約250名) 【テーマ】 クレジットカードとキャッシュレス <p>②令和2年(2020年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 城山高校 クラス別授業方式8枠(延べ約200名) 【テーマ】 高校生のためのライフプラン <p>③令和3年(2021年)</p> <ul style="list-style-type: none"> 津久井高校 定時制 講堂での授業 生徒先生約40名 「テーマ」 高校生にもわかる金融教育の基礎(クレジットカードを中心に) 				
役割分担	実施団体の主な役割				
	<ul style="list-style-type: none"> 授業・講座の企画と運営(講師とサポート要員の確保と講座内容の確認) 県や市のホームページ掲載依頼や当団体のホームページ掲載 youtubeを活用したPR活動 事業経費の負担 				
事業効果	市の主な役割				
	<ul style="list-style-type: none"> 校長会などへの出席による出前授業のPRと募集 関係期間や団体と調整 事業担当者などの出席 事業経費の負担 				
事業効果	市民ニーズに対応できた点				
	<p>民法改正の施行前から活動できたことで、一定の教育ニーズに対応できた。 協働期間の後半においては、新型コロナウイルス感染症の影響により、外部講師による出前授業に消極的になる学校が多く、申出は令和3年度は1校のみで縮小する結果となってしまったが、市内の県立高校学校長会議において、金融教育の必要性を訴えかけることができた。</p>				
事業終了後の方向性等	行政の効率化につながった点				
	<p>民法改正(成年年齢引下)、文科省の高校教育指導要綱の変更もあり、「高校生のための金融教育、高校生のライフプラン」教育は社会的意義がある。専門性が高い分野でもあり、行政や学校が対応しにくい分野でもあるため専門団体の活用により効率化が図れた。</p>				
事業終了後の方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」				
	<p>今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> 相模原市以外(神奈川県、東京都)にも同様の企画の提案を始めている。 すでに2022年度末に茅ヶ崎市の県立高校で出前授業を実施。 また2023年は横浜市の県立高校から引き合いをいただいている。 どのような形で継続できるかはまだ模索中であるが、自団体の財政が許す範囲内での実施となる。 				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	558,124	円	年度	年度	年度
			411,000円	102,240円	44,884円
上記のうち市負担金	317,624	円	年度	年度	年度
			242,000円	61,040円	14,584円

事業の名称	若年層に向けた金融教育支援事業 (高校生にも分かる契約、金融と奨学金の話)
-------	--

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A : 協働の基本原則・・・ 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 協働事業考え方はお互いに理解して取り組んだといえる。	自己評価			
		A			
B : 取組に当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
		A			
C : 事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったと思いますか。(事業の必要性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	a	b	c	d
		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだったと思いますか。(費用対効果)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
		<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 事業の内容は社会的必要性は十分ある。しかしコロナの影響もあり、高校への積極的、個別のPRに躊躇した面があり、成果は満足できない。	自己評価			
		B			

D : 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします! (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勧告し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	民間団体にとって事業のPRIは、活動手段や経済面などに非常に労力を要するものであり、相模原市との協働実績が様々な場面において有効かつ効果的だと感じた。	A			

E : 20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
相模原市での協働事業という3年の準備期間を与えられたと思います。この間にyoutubeのやり方を学び他の機関(消費者庁、神奈川県消費生活課、神奈川県・東京都の教育員会、読売新聞など)との関係が出来た。	様々なサービスを要求される行政として、組織内部だけの知識では限界があるため、専門的な知識は専門の組織・団体などと積極的に協働し、取り入れていくべきであると感じた。

F : 21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
社会的必要性のある事業ではあっても経済的基盤の弱い団体ではボランティアのみで事業の継続は困難である。	文科省の高校教育指導要綱による各学校の教育対応度合によっては、出前講座の必要性が無くなってしまふことも考えられるため、都度学校が求めるニーズを把握する手段が必要と考える。

G : 22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
協働事業は助成を受ける側の「高い理念とやり遂げる高い意思」が要求される	以前より改善されていると思いますが、まだまだ行政は「横のつながり」に対して弱いと感じます。専門分野は専門家に任せるのが一番だと思います。

H : 23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
財政基盤の弱い当団体のような所は競合する大証券会社、生命保険会社の無料出前授業に対して弱い立場にいる。出前授業内容の工夫や商品のPRや販売をしないことを明確に打ち出す必要がある。さらに助成を受けられる機関を常に探すことも重要である。	県FP協同組合様と協働して感じたことは、担当者をはじめ、金融教育に対しても熱い熱意を感じていました。私が担当した期間はコロナ禍だったために思うような活動実績は残せませんでした。が、協働事業で培ったノウハウを活かして積極的に活動範囲を拡げていくことに期待しています。

I : 24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄

コメント記載欄



令和元年 青陵高校 クラス授業
高校生のライフプラン

写真添付欄

コメント記載欄



令和2年 城山高校 講堂での合同授業
高校生にもわかる金銭教育の基礎

写真添付欄

コメント記載欄



令和3年 津久井高校定時制
クレジットカードとキャッシュレス社会

写真添付欄

コメント記載欄

高校生のための金融リテラシー
～株式・投資信託・債券の基礎～

▶金融リテラシーが高いメリット

- ・収入と支出の管理が旨く行き、借金をしない
- ・お金の備えがあり、失業病気/ケガなどに強い
- ・詐欺やお金のトラブルに巻き込まれない

神奈川県ファイナンシャルプランナーズ協同組合
ファイナンシャルプランナー 鈴木榮三郎



令和3年 YOUTUBE掲載
高校出前授業 (高校生のための金融リテラシー)
PR 動画 <https://youtu.be/3bfcJm4FLbE>



協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →	2
事業の名称	市民参加による「さがみはら散歩」作成事業	
団体の名称	市民講座 まなびのライブ塾	
事業担当課	観光・シティプロモーション課、生涯学習センター	
事業の概要	相模原を市民がよく知り、全国に発信していくために、相模原を紹介する書籍を市民参加により作成したい。書籍には、文章、写真、地図、文芸作品などのほか、歴史、文化等を掲載し、総合的に相模原を知る資料とする。	
具体的な取組みの状況	<p>(1) 講座の開催</p> <p>令和3年度 【夏講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園でヨガしよう 参加者8名 郷土の偉人に学ぶ 全6回講座のうち1回開催 参加者31名 <p>【秋講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> もっと知りたい相模原(全2回) 参加者13名 たまご街道を歩こう(全2回) 参加者18名 <p>【冬講座】</p> <ul style="list-style-type: none"> 講師の都合により講座延期→春講座へ <p>令和4年度 【春講座(一部開催予定あり)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 古代文字で書く さがみはら 参加者7名 森を歩いて木陰でヨガしよう 参加者5名 ふじのをウォーキング 参加者10名 古事記を学ぶ(全2回) 参加者28名 朗読を楽しみましょう! 参加者14名 楽しいオンライン句会(全2回) 参加者30名 プラネタリウム星空吟行会 参加者16名 県立相模原公園吟行会 申込者15名(6月19日) <p>【夏講座(開催予定)】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公園でヨガしよう 申込者5名(6月17日) 朗読を楽しみましょう! 申込者12名(7月5日~8月9日(全5回)) 歩く!学ぶ!体験する!橋本 申込者13名(7月29日) 相模湖を楽しもう! 申込者11名(8月30日) <p>*6月3日現在 全16講座中12講座開催、延べ166名の参加があった。(申込者を含む) *複数回開催のみ(全●回)と記載。</p> <p>(2) 電子書籍化及び有償化の検討</p> <p>①電子書籍化</p> <ul style="list-style-type: none"> 紙の冊子を公共施設等に配架することで幅広く多くの人目に触れることができる。 想定している読者層(主にシニア世代)が、より活用しやすい媒体が望ましい。 冊子をPDF化し、市及び団体ホームページからのダウンロードを可能にする。 <p>②有償化</p> <ul style="list-style-type: none"> 販売場所が限られるため、多くの人気が気軽に手に取ることができない。 プロモーション冊子は、すべて無償配布が前提。 <p>→紙の冊子を無償で配布。(公共施設等で配架。) 冊子をPDF化し、市及び団体ホームページからのダウンロード可。</p> <p>(3) 冊子配布先の検討</p> <p>幅広い多くの方により効果的なPRをするため、冊子の配架先を検討した。</p>	
役割分担	実施団体の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> 講座の企画・募集・運営(受講者の募集・受付・決定・連絡・会場の設営) 団体ホームページを利用した受講者の募集 参加者のアンケート調査及びまとめ 冊子作成に伴う現地取材 事業経費の負担
	市の主な役割	<ul style="list-style-type: none"> 実施会場の確保 市広報紙への記事掲載 講座開催に伴う、講師の派遣依頼等 事業経費の負担
	市民ニーズに対応できた点	<ul style="list-style-type: none"> 団体の活力を生かし、ヨガ、朗読、プラネタリウム吟行会など幅広い講座を、3区でバランス良くかつ、定員割れすることなく12講座を開催した。 アンケート調査の結果、(アンケートを回収できた)参加者から好評を得ており、令和3年度は「満足」を選択した参加者が90%と満足度が高かった。

事業効果	行政の効率化につながった点 ・市だけでは、3区でバランス良く多くの講座を開催することができないため、団体の活力を生かし、事業を開催できたことが大きな効率化に繋がった。 ・本市教育振興計画「学んだことを生かす機会の提供」を体現した。			
事業終了後の方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。 ・作成した冊子を通じて全国に相模原市をPRするとともに、相模原市民に市への興味や関心を持ってもらい、シビックプライドの醸成を促す。 また、市内の公共施設（公民館、こどもセンター等）等で冊子を配架し、市民への周知を行う。 ・今後団体が講座を開催する際には、冊子を配布し広報活動を行うほか、公民館活動など地域を巻き込んだ活動に発展させたい。			
3年間の総事業費と年度ごと内訳	1,907,367 円	R4年度	R3年度	年度
		1,314,000円	593,367円	円
上記のうち市負担金	1,570,367 円	R4年度	R3年度	年度
		1,034,000円	536,367円	円

事業の名称	市民参加による「さがみはら散歩」作成事業
-------	----------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・ 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、参加者の減少やキャンセル、緊急事態宣言の発令に伴う事業の延期など、必ずしも計画通りに事業を進めることができなかったが、課題はその都度団体と共有し、電話及びメール等で解決に努めた。これとは別に、月1回のオンラインでの打合せを行い、その他の課題を共有し解決策を講じた。	自己評価			
		A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 緊急事態宣言の発令に伴い、秋・冬講座の受付を団体から市に変更するなど、互いの立場を理解し、急時でも補完しあえる信頼関係にある。	自己評価			
		A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだったか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いませんか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 市民自らが企画・運営する市民を対象とした講座を実施し、その成果を本市の紹介冊子として作成することは、本市総合計画の基本計画に掲げられた施策である「生涯学習・社会教育の振興」及び「戦略的なプロモーション」の実現に繋がるものと考えている。	自己評価			
		A			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	各々の特性を発揮することにより、事業への効果が高まったと考えられる。今後は、ライブ塾に委託している市民講師養成講座などを活用し、次なる担い手の育成に尽力していただきたい。	A			

E：20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市とのやりとりによって、刺激を受けたり、新たな発見に繋がったと感じている。	・団体と意見交換をすることにより、新たなアイデアが生まれることや市民ニーズが把握でき、今後の事業展開に生かせる。

F：21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
主体となって活動できる人材が不足しているため、新たな担い手が必要であると感じている。	・適宜見直しを行ってきており、団体との関係も良好であったため、団体側に求める改善点はない。

G：22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
市と共に協働事業を進めていく中で、刺激を受けたり新たな情報を得られることがあるため、ぜひチャレンジしてほしい。	・市民(団体)と行政が協働して事業を行うことで、市民側にも行政側にもメリットがあるため、ぜひチャレンジしていただきたい。

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
今後も継続して連携を取り合いながら講座などの事業をすすめていきたいと考えている。	・ライブ塾に委託している市民講師養成講座などを活用し、次なる担い手の育成に尽力していただきたい。

1:24 取組の様子(写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

令和3年度春講座「公園でヨガしよう」

相模大野中央公園で、ヨガの講座を行いました。屋外の新鮮な空気を吸いながらのヨガは、心と身体をリフレッシュさせてくれました。交通の便がよく、緑豊かな相模大野中央公園での講座は、参加者からも好評でした。緑区から参加された方もいました。

写真添付欄



コメント記載欄

令和3年度秋講座「もっと知りたい相模原」

「さがみはら ふるさといろはかるた」「藤野郷土かるた」「さがみはら学習パズルびーず」を使って、遊びながら相模原のことを学びました。相模原の歴史、地理、名所旧跡など、今まで知らなかった相模原を知り、参加者にとって新たな発見がある講座でした。

写真添付欄



コメント記載欄

令和3年度秋講座「たまご街道を歩く」

南区の麻溝台地区の「たまご街道」についての講座を行いました。第1回目は、相模原市立博物館学芸員からたまご街道の歴史、管理栄養士から卵の栄養価を学びました。第2回目は、たまご街道を実際に歩きました。写真は、たまご街道に出店している店長から話を聞いているところです。卵についてや相模原の養鶏の歴史について理解を深めることができました。

写真添付欄



コメント記載欄

令和3年度 地域におけるラジオ体操

相模原市では現在90以上の会場でラジオ体操が行われ、多くの人に参加し、健康づくり、仲間づくりに役立っています。『さがみはら散歩』にも会場マップや記事の掲載を予定しています。写真は南区の団地での講習会の様子で、相模原市ラジオ体操連盟の指導者から指導を受けています。

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →		3		
事業の名称	防災意識の普及啓発、持続可能なエネルギーと人の繋がり活性化事業				
団体の名称	藤野電力				
事業担当課	危機管理課、緑区役所地域振興課、藤野まちづくりセンター、政策課				
事業の概要	電気をはじめとした災害時に役立つ知識や防災・減災に資する知識、自助や共助の重要性などについて、幅広い世代へ普及啓発するため、イベントへの出展や、関心のある団体に対して出前ワークショップを実施する。				
具体的な取組みの状況	主に新聞などを取らず自治会等にも入会していない、公的な情報が届きづらい若年家族層への防災意識の普及啓発のために、防災出前ワークショップを相模原市内で開催し、普及啓発を行った。本来はお祭りやイベントへの出展も行う予定であったが、コロナ対策のため、相模原市内のイベントも2020年度-2021年度と中止となるところがほとんどであり、その実施が難しく、代わりに映像で普及啓発の映像を作成し、youtube、facebookイベントページ等での公開を行った。2022年度現在は徐々にイベントの開催も可能になり、6月19日ミウヰ橋本での環境まつりや各地のイベント等にも参加予定です。				
役割分担	実施団体の主な役割 防災意識啓蒙のための各種活動。				
	市の主な役割 情報の告知や防災に関する情報提供等の活動支援。				
事業効果	市民ニーズに対応できた点 防災イベントへの参加者に防災時のサバイバル術をお伝えしたり、避難所運営ゲームを実施したりすることで、多くの参加者から、防災の大切さを知ったという意見をいただいた。また、防災の啓蒙映像は、短いものから360度のVR体験版まで作成したため、今後も継続的に利用ができる。				
	行政の効率化につながった点 防災意識の普及啓発を幅広い世代に行う事ができた。				
事業終了後の方向性等	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」をご記入ください。 今年度で制度適用期間は終了するが、今後も防災イベントなどの機会を捉えて、団体独自の活動のほか、市と団体で協力をして、継続して防災の啓蒙活動等を実施していきたいと考えている。				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	11,231,110 円	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
		4,088,895 円	3,606,215 円	3,536,000 円	
上記のうち市負担金	8,205,000 円	令和2年度	令和3年度	令和4年度	
		3,150,000 円	2,570,000 円	2,485,000 円	

事業の名称	防災意識の普及啓発、持続可能なエネルギーと人の繋がり活性化事業
-------	---------------------------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A: 協働の基本原則・・・		はい		いいえ
協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))				
1	相互理解の原則: 互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
2	目的共有の原則: 協働することの意義を明確にし、互いとその目的を共有して事業に取り組むことができたと思いますか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3	役割合意と協力の原則: 互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができたと思いますか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
4	自立の原則: 互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
5	透明性の確保の原則: 取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたと思いますか。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) コロナ対策もあり、話し合いの回数は多く取れなかったが、協働はできたと考えている。	自己評価 a		
B: 取組に当たっての関係性のふりかえり・・・		はい		いいえ
お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))				
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができたと思いますか。(報告・連絡・相談の機会)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができたと思いますか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
8	負担感を持つことなく、協働することができたと思いますか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができたと思いますか。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 担当者の交代もあったが、定期的には話げできた。	自己評価 b		
C: 事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！		はい		いいえ
(a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))				
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだと思いましたか。(事業の必要性)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
11	設定した目標(目的)を達成することができたと思いますか。(目標達成度)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
12	事業に要した経費は適切なものだと思いましたか。(費用対効果)	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたと思いますか。(市民満足度)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
14	さらなる発展が期待できる事業だと思いましたか。(将来性・発展性)	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 大人数に周知できるイベントへの参加がなかなかできなかった点では、残念だった。ワークショップに参加した方への意識変革は高く、また映像等も含めての今後の波及効果も期待できる。	自己評価 a		

D: 協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につながるすることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	防災意識の啓蒙も相模原市との協働により周知の機会が広がった。	a			

E:20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
相模原市としての取り組みも様々お伺いでき、市としてやりづらい点等を民間で補足することなどができた。	市単独での防災啓発では難しい層(関心の薄い若年層や低学年の児童がいる親子世代)への普及啓発が行えた。

F:21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
話合いの回数がもう少しできたらよかった。	情報共有で苦勞する場面が少しあった。

G:22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
相乗効果が出るように、色々話し合ってみて欲しい。	それぞれの得意分野を活かせるように、コミュニケーションをとって、課題解決に取り組んでいただきたい。

H:23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
相模原市の防災対応は様々なケースが必要となっており、大変なことも多いとは思いますが、これからも様々な活動をお願いしたい。	市の事業としては難しい新しい防災の取組として、市民の防災意識の向上につながるため、今後も協力できる部分は協力して活動していきたい。

I:24 取組の様子(写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

◆防災&ミニ太陽光電力製作ワークショップ◆

日時: 令和3年5月16日 10時~14時
 場所: 藤野電力事務所
 参加者概要: 大人6名
 内容: 2011年震災や2019年台風被害時の状況などの防災に関する講話(30分程度)の後、キットを利用し、ミニ太陽光電力を製作。完成したミニ太陽光電力を参加者で実際に使用体験するもの。

写真添付欄



コメント記載欄

◆オンライン講演会~地域防災を考える◆

日時: 令和3年10月13日 19時~20時
 場所: オンライン
 参加者概要: 大人488名(後日閲覧も含む)
 講師: 鈴木俊太郎(藤野電力 設計・施工・開発部門プロジェクトリーダー)
 内容: 地域の防災を19年の台風19号の教訓から考える
 ※人数はfacebookライブの再生数

写真添付欄



コメント記載欄

◆防災サバイバル講座◆

日時: 令和4年1月29日 10時~15時
 場所: モバイルハウスビレッジぼちぼちや公園
 参加者概要: 大人6名、子ども7名
 講師: 星野諭(一級建築士、プレイワーカー、防災プロデューサー。全国で移動式あそび場やキャンプ、防災イベントや講演で活動。)
 内容: いろいろな防寒術(衣&テント&焚き火術)、ワンシートテントづくり、非常食を美味しく食べるコツ(夕飯で実践)、身近なものの大変身(手作り食器やスプーン、カイロやランタン、段ボールベットや落ち葉の布団づくり、抱っこおんぶ術など)、野外の救命救急のポイントなど

写真添付欄



コメント記載欄月

◆避難所運営バーチャル体験◆

日時: 令和4年6月11日 13時~16時
 場所: 藤野小学校体育館
 参加者概要: 大人19名、子ども14名
 内容: 「避難所運営ゲームHUG」で避難所運営を具体的にイメージしてもらい、その後藤野小学校体育館を使って避難所運営を実際に体験してもらった。その様子を360度カメラで撮影しており、VR編集をして映像コンテンツを作成。観た人が仮想空間体験を通して、よりリアルに混乱している避難所現場の状況を体感できるコンテンツを作り、より多くの人に避難のイメージを持ってもらいたいと考えている。

協働事業提案制度事業 ふりかえりシート

整理番号	表右のリストから番号を入力してください →		4		
事業の名称	オープンデータ活用促進事業				
団体の名称	さがみはらIT協同組合				
事業担当課	DX推進課				
事業の概要	オープンデータの利活用促進のため、市民に役立つオープンデータのニーズを掘り起こし、目に見えるサービス・アプリケーションの活用事例づくりを行い、オープンデータ活用実績として周知を行う。				
具体的な取組みの状況	<p>令和2年度</p> <ul style="list-style-type: none"> 企画会議、関係各所への周知及びヒアリング（Web会議及びメール等活用） ニーズ把握の手法検討 （当初計画）相模原「市民桜まつり」等イベントを活用した市民アンケート調査 （現実対応）桜まつり等イベント中止のため、Webアンケートやメール等で調査 市内の子育て支援サークルを通じてデータニーズ調査アンケート実施 →64件の回答が得られた（アンケート期間：2020/11/2～2021/3/5） →例：相模原市で子育てするための情報は満たされていますか？ [いいえ:78%] ニーズ調査結果に基づき、オープンデータに関する庁内各部門との調整実施 <p>令和3年度</p> <ul style="list-style-type: none"> アプリコンテストの実施方法の企画・立案 →先進事例として奈良県生駒市にヒアリングし、実行体制や成果物等を伺った →プログラマー向けアプリセミナーを企画（セミプロ向け） →一般（含学生等）向けアプリセミナーを企画（学生の夏休み期間） 「ユニコムプラザさがみはら」との連携 →学生を中心とした「No t i o n」アプリセミナー＆YouTube作成を計画 <p>―― コロナウイルス感染症対策による業務縮小のため活動中断 ――</p> <p>令和4年度</p> <ul style="list-style-type: none"> プロジェクト打ち合わせ（5月） 				
役割分担	実施団体の主な役割				
	市民ニーズの掘り起こし アプリケーションコンテストの開催 コンテスト応募者の募集				
事業効果	市の主な役割				
	行政各部門との調整 啓蒙活動への協力・支援 運用経費の分担				
事業終了後の方向性等	市民ニーズに対応できた点				
	市民ニーズの的確な把握に基づき、市民の利用目的に見合った有益なデータを公開するため、さがみはらIT協同組合の人的ネットワークを生かし、必要最小限のコストで対象分野やニーズ把握に努めた。				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	行政の効率化につながった点				
	公開側である行政の視点だけではなく、利用者側である「市民」の視点を取り入れ、双方の知見を活かし市民ニーズに適合したデータを公開するプロセスについて、本事業での「協働」により効率的な取組が推進できた。				
上記のうち市負担金	昨年度で制度適用期間を終えた事業については、「現在の状況」 今年度が制度適用期間最終年度の事業については、「来年度以降の方向性」 をご記入ください。				
	今後それぞれに、市は市民ニーズに適合したデータ公開を継続し、実施団体はデータ活用サービスのビジネス化の検討を継続するが、「協働」の取組は完了する。				
3年間の総事業費と年度ごと内訳	150,000	円	令和2年度	令和3年度	令和4年度
			0円	0円	150,000円
上記のうち市負担金	100,000	円	年度	年度	年度
			0円	0円	100,000円

事業の名称	オープンデータ活用促進事業
-------	---------------

次のA～Dの19項目及びE～Iの5項目について、ご記入ください。

A：協働の基本原則・・・ 協働の基本原則に基づいて行動することができましたか？ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
1	相互理解の原則：互いの立場の違いや特性を認め合い、事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
2	目的共有の原則：協働することの意義を明確にし、互いがその目的を共有して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
3	役割合意と協力の原則：互いの役割分担について理解し、対等な協力関係で効果的に事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
4	自立の原則：互いに依存することなく、お互いの役割を自覚して事業に取り組むことができましたか。	a	b	c	d
5	透明性の確保の原則：取組の状況をホームページやニュースレター等で広く市民に対して発信することができたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、令和2年、3年(特に3年度は活動中断)と十分な活動ができなかったが、We b会議を利用したコミュニケーションを図ること等により、課題を共有し、解決策を講じてきた。	自己評価			
		A			
B：取組に当たっての関係性のふりかえり・・・ お互いの関係性についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
6	定期的あるいは必要に応じて、コミュニケーションを図る機会を設けることができましたか。(報告・連絡・相談の機会)	a	b	c	d
7	事業の取組に当たって、前向きに意見を述べ合うことができましたか。	a	b	c	d
8	負担感を持つことなく、協働することができたか。	a	b	c	d
9	協働して取り組んだことによって、信頼関係を深めることができましたか。	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 協働の基本原則の上で互いの役割分担を認識し、目的の達成に向けて協力して課題に対応し、主体となって事業を進めた。	自己評価			
		A			
C：事業のふりかえり・・・事業の妥当性や成果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
10	取り組んだ事業は、市民ニーズや社会的要請にマッチしたものだったか。(事業の必要性)	a	b	c	d
11	設定した目標(目的)を達成することができたか。(目標達成度)	a	b	c	d
12	事業に要した経費は適切なものだったか。(費用対効果)	a	b	c	d
13	取り組んだ事業は、市民から一定の評価が得られたか。(市民満足度)	a	b	c	d
14	さらなる発展が期待できる事業だと思えますか。(将来性・発展性)	a	b	c	d
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。) 市民ニーズの的確な把握に基づき、市民の利用目的に見合った有益なデータを公開するため、その対象分野やニーズ把握方法について十分に検討を行った。さがみはらIT協同組合の人的ネットワークを生かしたニーズ調査は必要最小限のコストで市民ニーズに適合したデータを公開するプロセスを実践した。	自己評価			
		A			

D：協働のふりかえり・・・協働することの必要性や効果についてお尋ねします！ (a=肯定(はい)、b=どちらかと言えば肯定、c=どちらかと言えば否定、d=否定(いいえ))		はい			いいえ
15	課題解決に当たり、協働して取り組むことがふさわしい事業だったと思いますか。(協働の必要性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
16	事業の妥当性や協働の必要性を勘案し、役割分担は適切なものだったと思いますか。(役割分担の妥当性)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
17	協働したことによって、相乗効果を上げることができたと思いますか。(相乗効果)	a <input checked="" type="checkbox"/>	b <input type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
18	協働したことによって、地域社会にインパクトを与えることができたと思いますか。(他団体や地域社会など外部への波及効果)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
19	他団体との新たな連携、新たな担い手(人材)の創出など、市民力や自治力の向上につなげることができたと思いますか。(市民力・自治力の向上)	a <input type="checkbox"/>	b <input checked="" type="checkbox"/>	c <input type="checkbox"/>	d <input type="checkbox"/>
自由意見	(以上の項目について、ご回答の理由などの補足事項をお書きください。)	自己評価			
	地域に根ざしたオープンデータの活用というテーマを実現、活性化するには行政と民間の協力が不可欠であり、今後、協働という形ではなくても相互協力の姿勢が重要と考える。	A			

E：20 協働のポイントー1 こんなところが良かった!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
三人寄れば文殊の知恵ではないが、一方だけでは思いつかなかったことや対外組織への協力の得やすさなどを実感することができた。	市では平成26年度からオープンデータを公開しているが、公開データの利活用が進んでいない(活用事例4件)。本事業は、市民ニーズに適合したデータの公開に伴い、市民による自発的かつ積極的なデータの利用が進み、データ利用が様々な地域課題の解決や利便性の向上等に寄与している状態を目指すものであり、市民サービスの充実につながる取組みである。

F：21 協働のポイントー2 ここは改善したい!と思ったことをお書きください。

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
ようやくコロナ禍による社会的な制限も徐々に解除されてきてはいるが、周知の場として予定していたさくら祭りや組合の会合なども大規模には開催できず、市民のマインドに対する影響もまだ大きいと考えられる。また、今年度の取りかかりの遅れもあり、事業開始当初に計画したイベント等の開催については、一般市民参加のイベントをそのまま実施することにこだわらず内容や募集対象を限定するなど効果的なアプローチを検討できればと考えている。	アフターコロナ、Withコロナの観点を取り入れた、オリジナリティのある地域課題の解決や市民の利便性向上等に寄与するサービスの充実を志向したい。

G：22 協働のポイントー3 これから協働にチャレンジしようとする人へのメッセージ!

実施団体記載欄	事業担当課記載欄
三人寄れば文殊の知恵ではないが、一方だけでは思いつかなかったことや対外組織への協力の得やすさなどを実感することができた。	行政の視点だけではなく、利用者側である「市民」の視点を取り入れ、双方の知見を活かして地域に根ざした活動テーマを実現、活性化するには行政と民間の協力が不可欠。

H：23 その他(それぞれに期待すること、自由意見)

実施団体記載欄	事業担当課記載欄

1:24 取組の様子 (写真とコメント) ※写真はできるだけ入れるようにしてください!

写真添付欄



コメント記載欄

新型コロナウイルス感染症の拡大予防のため、令和2年、3年（特に3年度は活動中断）と十分な活動ができなかったが、Web会議を利用したコミュニケーションを図ること等により、課題を共有し、解決策を講じてきた。

写真添付欄

写 真

コメント記載欄

写真添付欄

写 真

コメント記載欄

写真添付欄

写 真

コメント記載欄